

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-4-1	事業名	藻岩山魅力アップ事業				
担当	観光文化局観光部観光企画課 常川 211-2376						
全体計画							
事業内容	藻岩山については、「第4次札幌市長期総合計画」における位置づけを踏まえ、平成16年度に公募市民を含めて設置した懇談会、さらにシンポジウム、フォーラム等を通じ、藻岩山の今後のあり方、グランドデザインや魅力アップの方向性などについて検討を行った。これらを基に策定した「藻岩山魅力アップ構想」は、今後の藻岩山のあるべき姿・方向性を示すとともに、藻岩山で想定される施設の改修や求められる機能、さらにはこの機能を担う施設のガイドラインを示している。本事業は、この構想に基づき、老朽化しているハード面での再整備を、環境と観光開発の調和に留意しながら、来るべき環境重視社会、超高齢社会に対応した施設にしていくとともに、ソフト面でも季節に応じた藻岩山の魅力を伝えることを中心として多様な事業を展開していくことで持続的な来客数を確保することとし、ハード、ソフト両面での魅力アップに取り組む。			<年度別の事業内容>			
				(H19年度) 札幌紹介施設等基本計画策定 環境配慮ガイドライン策定 ソフト事業への支援 (持続的に藻岩山の魅力発信する仕組みの構築)	(H20年度) 魅力アップ事業全体の基本計画策定、基本設計案の策定 環境配慮ガイドラインの管理(～H22年度) ソフト事業への支援(～H22年度)	(H21年度) 札幌紹介施設等の実施設計	(H22年度) 建築土木工事 開業
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	<p>施設再整備については、札幌振興公社が藻岩山再整備準備室を設置し、札幌市もメンバーとして具体的な整備内容の検討を進めている。</p> <p>環境への配慮はこの再整備の重要テーマとなっており、18年度に引き続き複数年にわたる調査が必要となる猛禽類などの現地調査を含めた自然環境影響調査を実施したほか、市民意見交換会の開催や学識者懇談会の設置と委員へのヒアリング等を経て環境配慮ガイドラインを策定した。</p> <p>山頂展望施設内には、札幌紹介施設の整備を予定しており、その基本計画を策定した。この施設は、札幌を一望できるという藻岩山の特性を活かし、シアター形式で札幌を紹介する機能を有するもので、その規模・設備等の検討を進めている。</p> <p>ソフト事業については、藻岩山の日記念事業のほか、秋には「お月見ナイト」、冬は「ロマンティックパスポート」を期間を延長して実施したほか、「バージアイス」に替わって「アイステラス」を実施し、冬季間のロープウェイ利用者の拡大につながっている。このほか、(株)りんゆう観光、NPOのねおす、藻岩山きのご観察会などが藻岩山をフィールドとして季節に応じた様々な事業を展開している。</p> <p>藻岩山来場者数(19年度末実績) 520,857人(うちロープウェイ輸送人員 328,013人)</p>			<p>ハード整備に関しては、展望台の設計・建築について札幌振興公社がプロポーザルによる提案事業者を募集し、9月上旬に決定の予定である。これにあわせて中腹、山麓も含め魅力アップ事業全体の基本計画を策定する。引き続き基本設計の策定作業に着手し、21年2月には基本設計案を策定する。その後、関係機関との調整を進め、基本設計、実施設計の策定を順次進めていく。</p> <p>札幌市が展望台内に設置する札幌紹介施設については、19年度に策定した基本計画を踏まえて、展望台施設を建設するプロポーザル事業者との調整、導入が予定される特殊映像装置を最大限に活用できるコンテンツ制作などとあわせて21年度に予定される実施設計に向けた調整を行う。</p> <p>これらハード整備の計画、設計を進めていくにあたり、それぞれの段階で藻岩山の自然環境の保全が図られているかについて、環境配慮ガイドラインに基づく管理を実施する。</p> <p>ソフト事業については、藻岩山の日記念事業、お月見ナイト、ロマンティックパスポートなど、これまで実施している季節毎の核となる事業についてその継続、充実を図るとともに、新たに「七夕」の実施やロマンティックパスポートのさらなる期間延長など、事業の手法・規模について再検討する。さらに、リニューアル後には、札幌振興公社やNPOなど藻岩山で事業展開する活動主体が自立して活動できる体制づくりを進めていく。</p>			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
藻岩山の再整備		-	-	基本計画 策定	実施設計	工事中	整備
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 藻岩山の魅力を考える懇談会(H16)に公募市民が参加、この懇談会の提言を踏まえて藻岩山魅力アップ構想を策定 藻岩山の施設改修について考える市民意見交換会(H19)を計3回実施し、これらの意見を反映させて環境配慮ガイドラインを策定</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 収益的施設の整備は札幌振興公社が実施。給排水設備、中腹広場等の周辺環境整備は、公社による整備を市が支援する形で実施 [人材協力] 藻岩山をフィールドとして活動するNPOや企業の人材を活用することが今後のソフト事業展開に不可欠である。 [情報協力] リニューアルオープンに合わせて、旅行エージェント、情報誌等企業のPR媒体を積極活用し、集客を図る。 [その他の協力] 環境に対する意識の変化に伴い、企業の環境配慮活動や環境教育の場としての藻岩山の活用を提案していく。</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり ロープウェイ、観光道路以外にも年間10万人もの登山者がある市民に親しまれている山であり、今後も施設整備、環境保全等の面で市民参加、市民理解を得ながら事業を進めていく。また、大都市に近接した豊かな自然環境は国内にも例がなく、企業の環境に対する取り組みをPRする場、NPO等による環境活動の場、さらには子どもたちに対する環境教育の場としても活用できるような藻岩山になることを目指すものである。</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード		5-4-1		事業名	藻岩山魅力アップ事業		
評価(成果)				課題			
<p>ソフト事業重視の方針を受けて、藻岩山をフィールドとした事業者、NPO等による積極的な事業展開を行っている。特に、藻岩山の日(5/31)は19年度の入場者が10,626人(第1回～約6,000人、第2回～約4,000人)を数え、市民への事業の定着、藻岩山の魅力の認識が進んでいるものと考えられる。一連のソフト事業の実施により、藻岩山への来場者も前年度比3.7%の増、ロープウェイによる輸送人員に限ると6.8%の増加となっている。</p> <p>施設を使いやすく魅力あるものに再整備することによって集客増を図ることは当然であるが、魅力あるソフト事業や、資源として既に藻岩山が有している自然環境をより多くの市民・観光客に知ってもらうことによる集客の意義は、施設の改修後、数年経った後に現われてくるものであり、今後も重要なポイントであると考えられる。</p>				<p>藻岩山の貴重な自然環境への配慮は、施設再整備の最も重要なテーマであり、19年度に策定した環境配慮ガイドラインを通じて、計画、設計段階から工事、そして供用後に至るまでしっかりした管理を進めていく必要がある。また、こうした自然環境の保全、環境への配慮自体が集客要素として評価される対象にもなる。</p> <p>再整備事業の実施にあたっては、事業実施の主体となる札幌振興公社のほか、土地の所有者である国の関係機関、展望台の設計・建築を行うプロポーザル事業者、施設を所有するために新たに設立するSPC(特別目的会社)、事業に対して融資を行う金融機関、出資を予定している国の関係団体など、関係する機関が多いことから、これらの調整による事業の円滑な進捗が重要な課題である。</p> <p>ソフト面においても、各種事業を充実させ更なる集客交流を進めていくとともに、藻岩山をフィールドとして活動する事業者・NPO団体などの人材育成を図り、リニューアル後の施設を十分に活用して事業展開を図る体制づくりを進めていくことが必要と考えられる。</p>			
今後の事業の予定・方向							
<p>藻岩山は自然と共生する札幌のまちづくりの象徴として、多くの市民が誇りに思い、札幌を感じられる場所・見える場所として、市民や観光客の区別なく誰もが訪れたいような場所となることを目指すものである。本事業は、今後の環境重視社会、超高齢社会に対応したまちづくりの一環として、まちづくり交付金の制度なども活用して進めるものである。</p> <p>今後、札幌市と本事業に係わる民間事業者、関係機関との適切な役割分担のもと「藻岩山魅力アップ構想」の着実な推進及び具体化を図っていく。</p> <p>施設がリニューアルされる平成23年度以降は、魅力あるソフト事業を展開していくこと、そのための関係団体・機関の連携とソフト事業を担う人材の育成、新しくなったハード・ソフト両面について積極的な情報発信・PR活動の展開を進めていく。また、これによって藻岩山に集客される市民、観光客をいかに市内の各観光施設に還流させるかについても、藻岩山までの市電等によるアクセス面も含めて検討していく。</p>							
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	22,400	41,200	277,700	262,700	604,000	
	財源内訳	国・道支出金	0	16,600	79,200	77,200	173,000
		市債	0	5,760	33,270	26,970	66,000
		その他	0	0	80,000	70,000	150,000
		一般財源	22,400	18,840	85,230	88,530	215,000
予算	事業費	22,400	36,300	-	-	58,700	
	財源内訳	国・道支出金	0	12,884			12,884
		市債	0	0			0
		その他	0	0			0
		一般財源	22,400	23,416			45,816
実績	事業費	21,714	-	-	-	21,714	
	財源内訳	国・道支出金	0				0
		市債	0				0
		その他	0				0
		一般財源	21,714				21,714
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				9.6%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]							